

メンタル・スペース理論と過去・完了形式：日本語 と韓国語の対照

曹, 美庚

広島修道大学人間環境学部：助教授：日韓対照言語学、異文化コミュニケーション論

<https://hdl.handle.net/2324/6055>

出版情報：2003-06-30. 広島修道大学総合研究所
バージョン：
権利関係：

第5章 条件文タラの用法について

第1節 はじめに

日本語の条件文の分析においては、メンタル・スペース理論が有用であることが知られている。有田 [1993] では、人間が表現や理解の過程で心内に表現する知識というレベルに注目し、日本語の条件文の心的処理の過程、すなわちスペースという知識ベースとスペース間の要素の受け継ぎ、スペース内の局所的な推論や処理について考察している。そこでは、日本語の条件の4形式、タラ、ナラ、レバ、トは、明示的スペースを設定するか否か、現実世界に類似したスペースを設定できるか否か、スペース内での前件と後件の間の時間関係の義務的処理があるか否かによって区別される。とりわけ、タラは、明示的スペース、それも現実世界に類似したスペースを設定し、スペース内での前件と後件の間の時間関係の義務的処理を行うとされる。スペース内で時間的關係が処理されたタラは有田の主張によると「タ（過去）+ラ」であると解釈される。

本章では、日本語のタラ条件文における有田 [1993] のスペース的解釈を援用し、条件形式に含まれている「タ/ㄹ」について考察する。また、日本語のタラ条件文に対応する韓国語の「-ㄹ+条件形式」を検討し、スタンダード韓国語とダイアレクト韓国語の慶尚方言においては、条件形式を巡って過去・完了とされる「ㄹ」形式の言語表出にかなりの差が見られることを指摘する¹⁾。さらに、日本語のタラ条件形式とそれに対応する韓国語の条件形式との対照から、日本語の条件形式タラが「過去・完了形式「タ」+条件形式「ラ」」であろうと推論する。

第2節 先行研究

条件表現に対する定義としては、小泉保 [1986] や言語学研究会 [1985a,

b] の定義と益岡・田窪 [1992] の定義が代表的である。前者は、「仮定的な因果関係を表す」ものを条件表現と見なしており、後者は、「二つの事態の間の依存関係を表す」もので、後件の事態の成立が何らかの意味で前件の事態の成立に依存するものを条件表現として捉えている（有田 [1993]）。

日本語の条件文は仮定条件と事実条件に分かれ、仮定条件はさらに仮説条件と反事実条件とに分類される。仮定条件は、前件・後件がともに未実現の事態の場合に、それが実現した場合を想定して表現するものであり、とりわけ、「発話時点では実現していないが、将来的には実現する可能性のある事態」と関わっているのが仮説的条件である。事實的（確定的）条件は、前件あるいは文全体が実現した事態を表すような用法である。

条件表現全般に関する従来の研究としては、バを用いた文（条件文）の分析に重点が置かれている歴史的研究と、条件文の4形式「バ、ト、ナラ、タラ」の違いに重点が置かれ、特に各形式の本質的意味（条件の特徴）を示すことで違いを明らかにしようとする現代語研究に大別される。例えば、山口堯二 [1969] では、4形式を次のように説明している。

バ＝一般的な条件を表す用法を介して仮定条件を表す形式となりえた。

ト＝単なる時間的關係から帰結に先行しているにすぎない。

タラ＝完了性の形式。より事象そのものに即した仮定。實際的。

ナラ＝判断性の形式。より判断に即した仮定。思考的。

Abe [1991] は、日本語の条件節の形式を、それが導入するスペースに基準視點があるか否かという観点から、次のように捉える。

…語幹＋レバ

…語幹＋非過去形＋ト

…語幹＋過去形＋ナラ

…語幹＋非過去形／過去形＋ナラ

有田節子 [1991] では、次のような相違が提示されている。

バ＝可能世界の限定

ナラ＝判断の限定

ト＝状況の限定

タラ＝世界の限定

また、益岡隆志 [1993] は、4形式を次のように性格づけている。

バ = 一般的因果関係の表現

タラ = 時空間に実現する個別的事態の表現

ナラ = ある事態を真であると仮定して提示する条件

ト = 現実に観察される継起的な事態の表現

(前田 [1995] より。強調体は筆者による。)

日本語の条件表現の4形式に対するこれら先行研究の説明のうち、とりわけタラ形式の説明に注目しておきたい。タラ形式は、特定スペースにおける完了を前提にした形式であると推察される。このタラ形式を、メンタル・スペース理論に基づいてスペース内での時間的前後関係によって分析しようとする試みが有田 [1993] の研究である。その詳細については、節を改めて概説しよう。

第3節 メンタル・スペース理論に基づく条件文の分析

3.1 条件文における現実スペースと仮想スペース

日本語の条件文の表現あるいは理解における心的処理の過程は、まず、話し手の現時点におけるさまざまな判断の基盤となる知識ベースとしての「現実スペース (R)」を想定することから始まる。これは、発話時「ST」において活性化されている知識からなるものである。

- (1) R : 以下の①～③の要素から構成される知識ベース
- ① 話し手の長期的知識の中の活性化されている知識
 - ② 現行談話の ST までで得られた情報
 - ③ ST における①, ②に基づく予測

日本語の条件形式の中のあるものは、条件文の前件が成立しているよう

な、ある「現実」の候補を表現するスペースをRスペース内に導入すると仮定する。それを「仮想世界スペース (H)」と呼ぶ。Hは、Rとの類似が最大になるように以下の方法で最適化されて設定されるものとする。

(2) 最適化の方法 (Fauconnier [1985] より)

- ① Hの設定条件において、特にRと矛盾するものがない場合には、次のことを仮定して最適化せよ
 - a Rの要素の対応物がHに存在し、
 - b Rで成立する関係はHでの対応物においても成立し、
 - c Rの背景的仮定はHでも成立する
- ② Hの設定条件において、Rと矛盾するものがある場合は、矛盾するものを除いて、①のa b cに従って最適化を実行せよ。

それぞれのスペース内では局所的推論が行われ、条件文の後件はスペース内での局所的推論によって導き出される。この局所的処理には、定記述の指示対象の決定、ある種の補文の前提の充足、語彙あるいは統語構造に関し曖昧な構造の曖昧性除去などがあるとしながら、時間関係も局所処理の一つであり、その処理結果がテンス形式に反映すると考え、時間関係の処理を中心に議論を進めている。ここで、テンス形式の反映は以下のように決定される。

- (3) ある事態の成立する時点(出来事時)を T_n 、基準時となる時点(基準時)を B_m とすると、
 - (a) $T_n < B_m$ の時：過去(「た」)(「ていた」も含む)
 - (b) $T_n \geq B_m$ の時：非過去(「る」)(「ている」も含む)

条件節の形式に基準時が関与し、スペースRの基準時はSTである。

3.2 タラ条件文のスペース的分析

有田 [1993] は、タラ条件節の心的処理過程を以下のように分析している（事態 e が時点 t に成立することを $\langle e, t \rangle$ と表示する）。

(4) 太郎が行ったら、花子も行くだろう。

- ① $T_1 < B_1$ を満足するような事態「太郎が行く ($\langle p, T_1 \rangle$)」と基準点 B_1 を持つスペース H_1 が設定され、②のような最適化を受ける。
- ② H_1 における B_1 に対応する、 R 内の時点 B_1' において成立する要素、関係、背景的仮定が、 H_1 内において対応物を持つように H_1 を最適化せよ
 - (a) $B_1' < ST$ の場合
 B_1' の時点で成立していた要素、関係、背景的仮定が H_1 内で対応物を持つようにせよ
 - (b) $B_1' \geq ST$ の場合は、 ST の時点で B_1' までに成立していると予測される要素、関係、背景的仮定が、 H_1 内で対応物を持つようにせよ
- ③ H_1 内で局所的推論によって、「花子が行く ($\langle q, T_2 \rangle$)」が導かれ、
- ④ H_1 内で B_1 を基準にして、 B_1 と T_2 の時間関係が H_1 内で処理され、 $B_1 < T_2$ となる。同時に T_1 と T_2 の関係も B_1 を介して H_1 内で処理され、 $T_1 < B_1 < T_2$ となる。
- ⑤ H_1 の対応物が R に写され、 ST を基準にした $ST < T_1' < T_2'$ のような時間関係の処理が R 内で行われる。

(5) スペース H_1 では、 T_1 と T_2 の間の時間関係が義務的に処理される。

第4節 タラ条件文に対応する韓国語の条件形式の考察

上記のような典型的タラ節ではない、前件が事実である非典型的タラ節の場合においても、同様な心的処理を行う。ただし、例(6)のように後件が未実現事態である仮定的条件文は、 H_1 スペース設定の際にR内の $\langle p, T_1 \rangle$ を H_1 スペースに写すというプロセスを持つ。また、例(7)のように後件も事実である事実的条件文は、 H_1 スペース設定の際にR内の $\langle p, T_1 \rangle$ を H_1 スペースに写すというプロセスを持ち、 H_1 の最適化後再びR内の $\langle q, T_2 \rangle$ を H_1 スペースに写すのである。

(6) ここまで来たら、後は一人で帰れます。

(7) ドアを開けたら、花子が泣いていた。

この非典型文の場合は、事実であることが明らかな事態が H_1 を設定する基準になるので、 H_1 は後件の事態が成立する、あるいは成立した時点の世界の状況を表すようになるという。

第4節 タラ条件文に対応する韓国語の条件形式の考察

この節では、日本語のタラ条件文に対応する韓国語の条件形式と関連して、過去・完了を表す「ㄹ」形式の言語表出を検証・考察する²⁾。具体的には、日本語のタラ形式を「タ+ラ」として捉えたうえ、「タ」は特定スペースにおいてパーフェクトの意味合いを帯びることを前提にする形式であると解釈する。また、韓国語の標準語と慶尚方言においては、条件形式を巡って過去・完了とされる「ㄹ」形式の言語表出にかなりの差が見られることをも指摘する。

4.1 仮定条件の場合

仮定条件は、前件・後件ともに未実現の事態であり、それが実現した場合を想定して表現するものである。

(8) 太郎が来たら、ここを出ましよう。

SK *타로가 왔으면, 여기를 떠나자.

(9) 闘わなかったら、もっと悔いただろう。

SK 싸우지 않았으면, 더욱 억울했을 게다.

SK 싸우지 않았다더라면, 더욱 억울했을 게다.

日本語の仮定条件文の例(8)と(9)においては、話し手は前件の条件節の事態が起こってしまった時と場をもつ、現実と類似した仮想スペースに立って、そこに生起する事態を眺めるというような表現機構をとるといえよう。前件の実現を前提にする仮想スペースを持つこのような仮定条件は、例(8)のように「発話時点では実現していないが、将来的には実現する可能性のある事態」である場合の仮説的条件と、例(9)のような反事実条件とに分類される。

上記に見るように、(8)の仮定条件の場合は、タラ形式に対して韓国語の条件節内の過去完了形「있」は許容されず、(9)の反事実条件の場合は、その条件節内の過去完了形「있」は許容される。

(10) (=8) 太郎が来ると、ここを出ましよう。

SK 타로가 오면, 여기를 떠나자.

(11) (=9) 闘っていないと、もっと悔いただろう。

SK 싸우지 않았으면, 더욱 억울했을 게다.

SK 싸우지 않았다더라면, 더욱 억울했을 게다.

(8)と(9)における韓国語の完了形式「있」の表出の相違は、(10)に見るように、それが先行節と後続節の条件関係を表示するのみであるか、あるいは(11)のように、事態完了に対する認識を持つかの相違であるといえよう。(10)と(11)では、条件と結果の各表現は各々のスペース内の現在時点においてなされている。また、(10)は、発話時 ST において先行節の事態「太郎が来る(타로가 오다)」が完了しておらず、(11)は、発話時 ST において先行節の事

第4節 タラ条件文に対応する韓国語の条件形式の考察

態「闘っている(싸웠다)」が反事実的に完了している。なお、事態「闘う」が完了状態であることは例(12)に見ることができる。

(12) (=9) 実は, 闘っているから, あまり悔いていない。

SK 실은 싸웠기때문에, 그다지 억울하지 않다.

このように考えると、日本語のタラ条件文における韓国語の条件節内の形式は、話者がパーフェクト性を認識するか否かによって完了形式の表出が決まるといえよう。しかしながら、韓国語内でも標準語と方言とでは、完了形式「였」の表出に相違が見受けられる。とりわけ韓国語の慶尚方言では、特定スペース内のパーフェクト表示として、タラ条件文の「タ」にあたる「였」が現れうる。以下の例を見てみよう。

I

(13) この雨さえ止んだら {止むト}, 出発するぞ。

SK 이 비만 그치면 떠난다.

DK 이 비만 그쳤다가 떠난다.

(14) 勉強を本格的に始めたら {始めるト}, すぐに分かると思うけど

SK 공부를 본격적으로 시작하면, 곧 알거라고 생각해.

DK 공부를 본격적으로 시작했다카면, 곧 알거라고 생각해.

(15) もし、俺のことが知れたら {知られるト}, 俺もお前のことばらすからな。

SK 혹시, 내 일이 알려지면, 나도 너의 일을 알려버릴테니까.

DK 혹시, 내 일이 알려졌다카면, 나도 너의 일을 알려버릴테니까.

(16) 動いたら {動くト}, 撃つぞ。

SK 움직이면, 쏜다.

DK 움직였다카면, 쏜다.

- (17) 私の妹をいじめたら {いじめるト}, 許さないぞ。
SK 내 동생을 괴롭히면, 용서하지 않겠어.
DK 내 동생을 괴롭혔다카면, 용서하지 않겠어.
- (18) この宝くじさえ当たったら {当たるト}, 仕事は趣味にできる。
SK 이 복권만 당첨되면, 직업은 취미로 할 수 있다.
DK 이 복권만 당첨됐다카면, 직업은 취미로 할 수 있다.
- (19) 試験さえ合格したら {合格するト}, 海外旅行に行こう。
SK 시험에만 합격하면, 해외로 여행가자.
DK 시험에만 합격했다카면, 해외로 여행가자.

II

- (20) 手を離したら {離すト}, 落ちるよ。
SK 손을 놓으면, 떨어진다.
DK 손을 놓았다카면, 떨어진다.
- (21) この道をまっすぐ行ったら {行くト}, 郵便局があります。
SK 이 길을 똑바로만 가면, 우체국이 있어요.
DK 이 길을 똑바로만 갔다카면, 우체국이 있어요.
- (22) 明日, あの歌手さえ来たら {?来るト}, 大成功だ。
SK 내일 그 가수만 온다면, 대성공이다.
DK 내일 그 가수만 왔다카면, 대성공이다.
- (23) 明日, 雨が降ったら {降るト}, 運動会は中止だ。
SK 내일, 비가 오면, 운동회는 중지다.
DK 내일, 비가 왔다카면, 운동회는 중지다.

上記の(13)~(23)のタラ条件文については、スタンダード韓国語においては、完了形式「았」が表出されないが、慶尚方言においては完了形式「았」が表出されている。これらの条件文では、前件で想定される事態の成立が、後件の事態成立の直接的トリガーになる。後件では前件の想定事態に対する話し手の立場・意見を叙述している。スタンダード韓国語と慶尚方言の相違は、

第4節 タラ条件文に対応する韓国語の条件形式の考察

前件の事態成立をパーフェクト的に認識するか否かの相違であると考えられる。なお、上記の例(13)~(23)は「ト」形式と交替可能である。

それでは、これらの事態が特定スペース内で明らかに成立している状態として仮定できるように、「タラ」形式の代わりに「テイタラ (テイタ+ラ)」のパーフェクト形式を用いて上記の例を考察しなおしてみよう。

(24) 雨が止んテイタラ, もう出発するだろうな。

SK 비가 그쳤다면, 지금쯤 출발할 것이다.

DK 비가 그쳤다가면, 지금쯤 출발할 것이다.

(25) 勉強を本格的に始めテイタラ, 分かると思うけど。

SK 공부를 본격적으로 시작했으면, 알거라고 생각하는데.

DK 공부를 본격적으로 시작했다카면, 알거라고 생각하는데.

(26) もし、俺のことが知れテイタラ, 俺もお前のことばらすからな。

SK 혹시, 내 일이 알려졌으면, 나도 너의 일을 알려버릴테니까.

DK 혹시, 내 일이 알려졌다카면, 나도 너의 일을 알려버릴테니까.

(27) この事実がばれテイタラ, おしまいだ。

SK 이 사실이 들통났으면, 끝장이다.

DK 이 사실이 들통났다카면, 끝장이다.

(28) (結果を見に行く途中) 試験に合格しテイタラ, 海外旅行に行こう。

SK 시험에 합격했으면, 해외로 여행가자.

DK 시험에 합격했다카면, 해외로 여행가자.

例(24)~(28)は、パート I の例(13)~(19)に対して「タラ」形式の代わりに「テイタラ」形式を採用したものである。この(24)~(28)の例に見るように、想定している前件の事態が特定スペース内で結果状態あるいは完了状態として存在するようにパーフェクト性を付与すると、スタンダード韓国語においても完了形式「았」の表出が許容される³⁾。これらの条件文に用いられるテイタは、結果あるいは完了を表す状態属性をもつパーフェクト的なものであり、後件

の事態成立の背景的トリガーとして働いているといえよう。

しかし、パートⅡの例(20)~(23)に対して、上記と同じく「タラ」形式の代わりに「テイタラ」形式を採用すると以下ようになる。

(29) 明日, あの人が来テイタラ, 必ず渡してください。

SK 내일 그 사람이 와 있으면, 꼭 전해주세요.

DK 내일 그 사람이 와 있었다카면, 꼭 전해주세요.

(30) 明日の朝も, 雨が降っテイタラ, 運動会は中止だ。

SK 내일 아침에도, 비가 오고 있으면, 운동회는 중지다.

DK 내일 아침에도, 비가 오고 있었다카면, 운동회는 중지다.

(29)の結果状態のタラと(30)の意志決定時の状況を表すタラの場合は, スタンダード韓国語では, 状態のパーフェクト形式「-어 있」が使われるため「있」は許容されず, 慶尚方言では, 状態のパーフェクト形式「-어 있」とともに補助的に「있」が許容されている。この補助的な「있」の許容は, パーフェクト形式の強調のように思われる。

もっとも, 反事実のタラ条件文に対応する完了形式「있」の表出においては, 以下の例に見るように, スタンダード韓国語と慶尚方言の間に差は見られない。

(31) もし, 昨日雨さえ止んでいたら, 出発してたのに。

SK 만약, 어제 비만 그쳤더라면, 출발했을 것이다.

DK 만약, 어제 비만 그쳤다카면, 출발했을 것이다.

(32) もし, そのことが知られていたら, 落選しただろう。

SK 혹시, 그 일이 알려졌더라면, 낙선했을 것이다.

DK 혹시, 그 일이 알려졌다카면, 낙선했을 것이다.

(33) もし, 円高の追い風がなかったら, どうなっていただろう。

SK 만약, 고엔 추세가 없었다면 { 없었더라면 }, 어떻게 되었을까.

第4節 タラ条件文に対応する韓国語の条件形式の考察

DK 만약, 고엔 추세가 없었다카면 {없었더라면}, 어떻게 되었을까.

(34) この薬を飲んでいたら, 治ったのに。

SK 이 약을 먹었으면 {먹었더라면}, 나왔을텐데.

DK 이 약을 먹었다카면, 나왔을텐데.

(35) あの時, もう少し調べていたら, こんな間違いはしなかつただろう。

SK 그때, 좀더 조사했으면 {조사했더라면}, 이런 잘못은 저지르지 않았을텐데.

DK 그때, 좀더 조사했다카면, 이런 잘못은 저지리지 않았을텐데.

これら反事実条件のタラについては, 例(9)(11)(12)でも考察したように, 発話時 ST において, 先行節の事態が反事実的に完了していることを内在している。例えば, (25)では「実は円高の追い風があった」, (26)では「実は, この薬を飲んでいなかった」, (27)では「きちんと調べていない」ということになり, いずれも反事実事態の完了状態として捉えることができる。これら反事実的条件文は, 前件・後件ともに過去完了形の述語形式を持つ。

また, 習慣的なものに使われる「タラ」の場合も, スタンダード韓国語では「았」形式が許容されないが, 慶尚方言では「았」形式が許容される。習慣的なものは, 事態に対する発話時 ST の時間関係や完了状態が全く問題視されないため, スタンダード韓国語は「았」形式を許容しないのだろう。

(36) 机に座ったら, 居眠りをする。

SK 책상에만 앉으면, 준다.

DK 책상에만 앉았다카면, 준다.

(37) 雨が降ったら, この道はどろどろになる。

SK 비만 오면, 이 길은 질퍽거린다.

DK 비만 왔다카면, 이 길은 질퍽거린다.

(38) いったん始めたら, 最後までやりとげる。

SK 일단 시작하면, 끝을 본다.

DK 일단 시작했다카면, 끝을 본다.

これまでの考察を踏まえると、スタンダード韓国語では、パーフェクトの意味が希薄であるタラ形式の条件節においては完了形「있」の表出が許されず、確実にパーフェクトの意味合いを持っているテイタラ形式の条件節においてのみ完了形式「있」の表出が許される。一方、ダイアレクト韓国語の慶尚方言のほうは、タラ形式の条件節においてもテイタラ形式の条件節においても完了形式「있」の表出がみられ、習慣的なものにも「있」が許容されるなど、スタンダード韓国語よりその許容範囲が広いことがわかる。また、タラ形式とテイタラ形式、反事実条件形式、習慣的なものに使われる条件形式などに対する対応関係において、スタンダード韓国語はそれぞれに異なる形式を用いるのに対し、ダイアレクト韓国語である慶尚方言はそれぞれに形式分別せず同じ形式を持ちうるということが分かる。このことは、慶尚方言において完了形式が分化されていないことを意味しており、古代韓国語の痕跡が慶尚方言に残存していることを物語っている。

日本語のタラ形式をスタンダード韓国語やダイアレクト韓国語の慶尚方言と対照考察した結果から、日本語の条件文の「タラ」は「タ（完了形式）＋ラ（条件形式）」であると推論することができる。要するに、「タラ」の「タ」は、古典語の「タリ」「タラバ」の「タ」であり、条件を表す「タラ」は已然形「タラバ」から発展・変化した形式であろうと推測される。このことは、「タラ」形式が、希薄でありながらも「パーフェクト性」を内在しているということの意味するものである。

パーフェクト性が希薄に残っているタラ形式との対応においては、スタンダード韓国語では完了形式「있」が表出されにくく、最もパーフェクトらしい「タラ」形式、つまり「テイタラ」形式に対してのみ完了形式「~~있~~」が表出されるといえる。以上を図示すると次のとおりとなる。

第4節 タラ条件文に対応する韓国語の条件形式の考察

日本語	SK (スタンダード韓国語)	DK (慶尚方言)
タラ	ϕ	있
テイタラ	있	있

図5-1 タラ条件文に対応する韓国語の条件節内の完了形式の表出

以上、タラ条件文の仮定条件において、韓国語の条件節内に完了形式「있」が表出するか否かを考察してきた。条件節内の完了形式「있」の表出については、想定される特定スペース内でパーフェクト性を認識するか否かによって、スタンダード韓国語とダイアレクト韓国語の慶尚方言に相違が見受けられ、慶尚方言のほうがその許容度が高いことを指摘した。次節では、事実条件文のタラ形式について韓国語との対応関係を考察し、条件節内に完了形式が表出するか否か、さらにスタンダード韓国語とダイアレクト韓国語の慶尚方言の間には相違が見られるか否かについて検討してみよう。

4.2 事実条件の場合

事実条件文とは、前件・後件がともに事実を述べている場合のタラ条件文である。

(39) ドアを開けたら、花子が泣いていた。

문을 열었더니 (열자), 하나꼬가 울고 있었다.

(40) その部屋で本を読んでいたら、美智子が入ってきた。

그 방에서 책을 읽고 있었더니 (읽고 있자니), 미찌꼬가 들어왔다.

(39/40)では、基準点を持つ仮想スペース内に、その基準点より以前に現実スペースにおいてすでに実現している事態、たとえば〈ドアを開ける(문을 열다)〉〈本を読んでいる(책을 읽고 있다)〉といった事実的事態を

写している。さらに、スペース間の最適化過程を済ませた後、再び現実スペース R 内に事実として存在する〈花子が泣いている (하나꼬가 울고있다)〉、〈美智子が入ってくる (미찌꼬가 들어온다)〉といった事実的事態を導入する。有田は、この場合も仮想スペース H_1 内で基準時 B_1 を基準にした時間関係の処理が行われるとしている。

この事実的条件の場合、韓国語における仮想スペースの設定は回想時制とも言われる [더니] の [더] によって明示的に導入される。この [더] は、基準時点を持つ仮想スペース H_1 の設定あるいは導入表現として解釈できよう。また、前件の [았] は、事態が基準時 B_1 より以前であることを明示的に証明しているのである。

この事実条件文の場合、韓国語における条件節の形式は「…語幹+過去・完了形 (았-タ)+条件接尾語 (더니-ラ)」のように言語表現される。

- (41) トンネルを出たら、雪がひどく積もっていた。
 터널을 나왔더니, 눈이 많이 쌓여 있었다.
- (42) コインを入れたら、切符が出てきた。
 코인을 넣었더니, 표가 나왔다.
- (43) 窓を開けたら、エーゲ海が目の前に見えた。
 창문을 열었더니, 에게해가 눈 앞에 펼쳐졌다.
- (44) さっき電話したら、奥さんが出た。
 잠전에 전화했더니, 사모님이 나왔어.
- (45) ボタンを押したら、水が出た。
 버튼을 눌렀더니, 물이 나왔다.

上記の例は、いずれも事実的条件を表すものである。この事実的条件を表すタラ文の対応において、スタンダード韓国語とダイアレクト韓国語の慶尚方言の間に何ら差は見られない。

これら事実的条件文は、条件節の形式を「過去完了形+接続形式」のよう

に交替可能である。

- (46) (=41) トンネルを出た。すると, 雪がひどく積もっていた。
터널을 나왔다. 그러자, 눈이 많이 쌓여 있었다.
- (47) (=42) コインを入れた。すると, 切符が出てきた。
코인을 넣었다. 그러자, 표가 나왔다.
- (48) (=43) 窓を開けた。すると, エーゲ海が目の前に見えた。
창문을 열었다. 그러자, 에게해가 눈 앞에 펼쳐졌다.
- (49) (=45) ボタンを押した。すると, 水が出た。
버튼을 눌렀다. 그러자, 물이 나왔다.

この場合, 「すると (그러자)」が, 基準点 B₁ の役割を担うと言える。また, 以下の例(50)~(54)のように, タラは共通の前後関係を持つ日本語「ト」と交替できる。同様に, 韓国語においても, 「었더니」は継起的表示である「-자」や「-니」に交替可能である。

- (50) (=41) トンネルを出るト, 雪がひどく積もっていた。
터널을 { 나오니/나오자 }, 눈이 많이 쌓여 있었다.
- (51) (=42) コインを入れるト, 切符が出てきた。
코인을 { 넣으니/넣자 }, 표가 나왔다.
- (52) (=43) 窓を開けるト, エーゲ海が目の前に見えた。
창문을 { 여니/열자 }, 에게해가 눈 앞에 펼쳐졌다.
- (53) (=44) さっき電話するト, 奥さんが出た。
잠전에 전화 { 하니/?? 하자 }, 사모님이 나왔어.
- (54) (=45) ボタンを押すト, 水が出た。
버튼을 { 누르니/누르자 }, 물이 나왔다.

上記の分析から, 事後的条件文において, 韓国語も日本語と同様に仮想ス

ベース導入の処理過程を持つといえる。むしろ、韓国語のほうがそのスペース導入処理を言語表現として明示化しやすいともいえよう。

(50)~(54)において、事実条件文の「タラ」が事態の前後関係を有することから「ト」形式と交替可能であると述べたが、(55)~(58)のように「ト」形式では落ち着かない場合がある。これに関しては、蓮沼 [1993] が「話し手の認識の実体験や語り物における語り手の視点」と言った面白い観点から両者の相違を指摘している。

- (55) 今朝起きたら |起きるト|, 頭がずきんずきんした。
 오늘 아침에 일어났더니 { ? 일어나자 }, 머리가 지끈지끈거렸다.
- (56) 毛のセーターを洗濯機で洗ったら |??洗うト|, 着られなくなった。
 모스웨트를 세탁기에 빨았더니 { 빨자 }, 못 입게 되었다.
- (57) 昨日10キロ走ったら |??走るト|, 2キロやせた。
 어제 10킬로 달렸더니 { ?? 달리자 }, 2킬로 빠졌다.
- (58) 昨日この薬を飲んだら |*飲むト| よく効きました。
 어제 이 약을 먹었더니 { ? 먹자 }, 잘 들었어요.

久野 [1973] や Inoue [1979] は、(59)のように、後件に同一主語による意志的行為の連続動作がくる場合は、日本語の「タラ」と「ト」は制約を受けると指摘している。また、(60)のように、前件が時間の推移を表す「時」の用法である場合は「タラ」は不適格となるが、継起的意味の「ト」は適格であるとしている。この点については、韓国語のほうも(61)に見るように、時間の推移を表す場合は継起的意味関係を表す接続形式「-자」が適格とされる。

日本語の場合、後件が意志的行為を表さないものであれば、同一主語の意志的行為の連続動作の制約が働かないので、(62)や(63)のように「タラ」も「ト」も適格な文となる。一方の韓国語においては、同様の状況で、継起的意味関係を表す接続形式「-자」は適格となるものの、「(았)-더니」についてはその限りではない。

第5節 むすび

- (59) ゆうべご飯を {*食ベタラ / ?食べるト} テレビを見ました。
어제 저녁밥을 {*먹었더니 / *먹자} 텔레비전을 보았어.
- (60) 彼は家に {*帰ッタラ / 帰るト}, 友達に電話した。
그는 집에 (*돌아왔더니 / 돌아오자), 친구에게 전화했다.
- (61) 布団に {入ッタラ / 入るト}, そのままグーグー眠ってしまった。
이불 속에 {*들어갔더니 / 들어가자}, 그대로 쿨쿨 잠들어 버렸다.
- (62) 家に {帰ッタラ / 帰るト}, 母から小包が届いていた。
집에 {? 돌아왔더니 / ? 돌아오자}, 어머니한테서 소포가 와 있었다.
- (63) 夜に {なッタラ / なるト}, みぞれは雪に変わった。
밤이 {*되었더니 / 되자}, 비는 눈으로 바뀌었다.

第5節 む す び

本章では、日本語の条件文に対するメンタル・スペース的解釈と、タラ条件文が仮想スペースを導入するという有田の説を受け入れ、日本語のタラ条件文とともにそれに対応する韓国語の条件節を考察した。これまでの考察から得られた結論は次のとおりである。

第1に、仮定条件において、仮想スペース内での事態完了に対し話者認識が働いているか否かで韓国語の条件節内に「있」形式の表出如何が決まる。

第2に、条件形式を巡って、スタンダード韓国語とダイアレクト韓国語の間には相違が認められる。

第3に、韓国語との対応考察の結果、条件文「タラ」の「タ」は何らかの意味で限界達成性およびパーフェクト性を帯びていると考えられる。したがって、形式面において、日本語のタラは「…語幹+過去完了形式 [タ]+条件形式 [ラ]」であり、それに対応する韓国語の条件文は「…語幹+過去完了形式 [있]+条件接尾語」であると解釈できる。

第4に、事実的条件文における仮想スペースの導入については、日本語より韓国語のほうがより明示的である。

第5に、事実的条件文の「タラ」が事態の前後関係を有することから、共通の前後関係を有する「ト」形式と交替が可能である。もっとも、「ト」形式との交替可能性については、日本語と韓国語の間には若干の相違が見受けられる。

注

- 1) 本文中の SK は standard Korean, DK は dialect Korean (慶尚方言) を指す。
- 2) 韓国語の場合、先行節と後続節を条件関係でつなぐ形式には「-거든, -으면, -에야, 다가」等があるが、ここではそれらの条件形式にこだわらず、日本語のタラ条件の過去・完了形式「タ」の対応関係としての「있」の表出に関心が置かれる。
- 3) ここで使われている「있」は、結果完了状態の「-어 있」形式の縮約から成るものとされる。韓国語の「있」は、状態を表す「-어 있」が進化発達する際に、状態を表す「-어 있」と進行を表す「-고 있」に分かれたとされている。